

低学年分科会（対象：1年1組28名）

1 分科会提案

（1）目指すよい学習像

低学年分科会第1学年の目指すよい学習とは、安心して自分の意見が言える学習である。入学間もない1年生であるが、一人一人の学習への取り組み方は個人差が大きく、学習に不安を抱えている児童もいる。そのために、児童が関わりながら、「なるほど。」「それもいいね。」「いい考えだね。」など肯定的な言葉を掛け合うことで、自信を深めさせたい。友達との関わり合いを通して、お互いに学び合い励まし合いながら、安心して自分の意見を言い合えるような、学習を仕組んでいく。

（2）「よい学習」を実現するための手だて

①いろいろな形態の対話設定

1年間を通して、ペアで、グループで、学級全体でと、段階を踏みながらいろいろな形態の対話を経験させていく。対話の流れを提示したり、対話のデモンストレーションを適宜行ったりして、どのように対話したらよいかをつかめるようにしたい。

本単元では、同じ学習の流れで繰り返し対話を取り入れることで、少しずつ自分たちで考えて対話を進められるようにしていく。

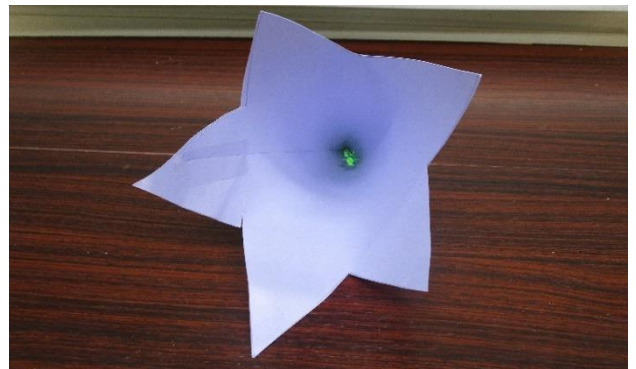
②具体物の活用

ハスやキキョウの花・つぼみの模型を作成し、教材文のイメージをもちやすくする。本文の叙述が、具体物にどう対応するのか、確認しながら学習できる。

【ハスの模型】



【キキョウの模型】



2 単元名「つぼみはかせだらけのけんきゅうはっぴょうかい ～もっとしりたいつぼみはどれだ！？～」

教材名「つぼみ」（光村図書 国語1年上）

3 教材観

「つぼみ」は、植物のつぼみの開き方について、三つの事例を取り上げた文章である。「これは、なんのつぼみでしょう。」という「問い」に対して、「これは、〇〇のつぼみです。」のように「答え」を簡潔に説明している。「答え」に続く文では、それぞれのつぼみの開き方について、時間的な順序で説明している。

各事例は、事例①「あさがお」→事例②「はす」→事例③「ききょう」という順序になっている。児童にとっては、「あさがお」という身近な事例から、「はす」「ききょう」という疎遠な事例になっている。

児童は、さまざまなつぼみの形や開き方に関心をもちながら読むことができる教材である。

4 単元の目標・評価規準

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。(1)ク	・事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。 C(1)ア ・文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。 C(1)ウ	・積極的に説明の順序を捉えながら文章を読み、学習課題に沿って分かったことや考えたことを伝えようとする。
	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・語のまとまりや響きなどに気を付けて音読している。 (1)ク	・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉えている。C(1)ア ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。C(1)ウ	・積極的に説明の順序を捉えながら文章を読み、学習課題に沿って分かったことや考えたことを伝えようとしている。

5 児童の実態

入学して3か月が経ち、落ち着いて学習できる児童が増えてきた。入学当初は、挙手して発言できる児童は3割程という現状があったので「ペア学習」と称して、近くの友達に自分の意見を発表する機会を、国語に限らず他教科でも多くもたせた。また「旅学習」と称して、自由にペアを作り、対話する機会を多く設けてきた。目の前の相手に共感してもらえたり、多くの意見を聞けたりすることで、安心し、自信をもつ様子が見られた。全体発表の場でも挙手できる児童が6割程度に増えるようになった。

今回は、説明的な文章との出会いの学習である。大事な言葉を確認しながら読み、「問い」と「答え」という説明文の構造を学ばせたい。児童が既にもっている知識や実際の経験と結び付けて解釈し、感じたことや分かったことを互いに共有し合えるようにしていく。そのために教科書の挿絵だけでなく、関連する図書や映像、具体物などを用意し、児童が想像を広げたり理解を深めたりできるようにしていきたい。また、この学習を通して、いろいろな本があることを知り、関連する図書をすすんで読もうとする児童を増やしていきたい。

6 指導計画

次	時	主な学習活動	・指導上の留意点 ◆評価規準 ☆評価方法
1次	1	①学習の見通しをもつ。 ・花やつぼみ、その開き方などについて、知っていることを出し合う。 ・写真を見て、「問い」の「答え」を予想する。	・関連する本を用意しておき、児童が手に取れるようにする。 ◆これまでの体験や知っていることを思い出し、学習課題に沿って、分かったことや考えたことを伝えようとしている。【態】☆発言・観察
2次	2	②書かれているつぼみの順番を確かめる。 ③語のまとまりや言葉の響きを確かめながら読む。	・写真と文章とを照らし合わせながら、読み取らせるようにする。 ◆語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。【知】☆音読
	3・4・5 (本時)	④本文と写真とを対応させながら、3種類の花のつぼみを取り上げられていることを確かめる。 ⑤それぞれのつぼみについて、「問い」と「答え」を確認し、「答え」の後に、詳しく説明している部分があることを確かめる。	・三つ事例が同じ構成になっていることを捉えられるように、板書の仕方を工夫する。 ・写真掲示だけでなく、具体物も用意する。 ◆文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。【思】☆発言 ◆「読むこと」において、「問い」と「答え」の構成を理解し、内容の大体を捉えている。【思】☆発言
	6	⑥「問い」と「答え」という文章形式を確かめながら音読する。	・ペアになって「問い」の文を相手に尋ねるように話したり、文や語のまとまりが伝わるように音読したりできるようにする。 ◆「問い」と「答え」の順序で説明することのよさに気づき、分かったことや考えたことを伝えようとしている。【態】☆発言・観察
3次	7・8	⑦もっと知りたいと思った花のつぼみを選び、本文の説明に加えたい文章を考える。 ⑧「つぼみはかせだらけのけんきゅうはっぴょうかい」を開き、考えたものを伝える。 ⑨学習を振り返る。	・つぼみから花への時間的な経過を実感させるために、開花する様子の動画を用意する。 ・「わけをはなそう」で学習した「どうしてかという～だからです。」という話型で、自分が考えたことを、理由とともに話すことができるようにする。 ◆積極的に、学習課題に沿って分かったことや考えたことを伝えようとしている。【態】☆発言・観察

7 本時の学習(5/8時間目)

(1) 目標

「問い」と「答え」の構成を理解し、内容の大体を捉える。

(2) 展開

	○学習活動	・指導上の留意点 ◆評価規準 ☆評価方法
導入 (5分)	○前時を振り返り、本時のめあてを確かめる。	・見通しをもって学習できるように、これまでの学習や本時の活動、単元の最後に何をするのか尋ね、児童が答えられるようにする。
	「ききょう」の つぼみはかせに なるう。	
展開 (35分)	<p>○ききょうのつぼみを音読する。</p> <p>○「問い」と「答え」という形式など、文章構成を確認する。</p> <p>○ペアで教科書の写真を見たり、具体物を触ったりしながら本文と照らし合わせて対話し、「ききょう」の特徴を捉える。</p> <p>○全体で確認する。</p>	<p>・児童一人一人のペースで読むことを保証する。</p> <p>・支援の必要な児童には、適切な分量を音読するように指示する。</p> <p>・文章構成を視覚的に分かりやすくするために、「問い」は赤線、「答え」は青線で囲ませる。</p> <p>・「問い」に対する「答え」の後に、つぼみの開き方とどんな花が咲くかの「説明」が続くことを捉えさせる。</p> <p>・「あさがお」や「はす」と同じような文章構成で書かれているかが捉えられるように文章を拡大掲示する。</p> <p>・安心して対話ができるように、頷いたり相槌を打ったりすることの大切さを確認する。</p> <p>・本文に書いてあることがしっかりと理解できるようにキキョウの模型を実際に触ったり、本文に立ち戻ったりできるように声を掛ける。</p> <p>・必要性を感じたら学習活動を止め、対話の進んでいるペアを指名し、モデルを見せるなどして確認する。</p> <p>・児童の生活経験に基づき、語彙指導を丁寧に行う。</p> <p>◆「読むこと」において、「問い」と「答え」の構成を理解し、内容の大体を捉えている。【思】☆発言</p>

まとめ (5分)	<p>○学習の振り返りをする。</p> <p>○次時の学習の見通しをもつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・顔マークで全員が振り返りをした後に、児童数名に発表させる。 ・つぼみはかせに近付いたことを価値付ける。
-------------	--	---

(3) 具体的な児童の姿と、目標の実現を目指すための手だて

十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要すると判断した児童 (C) への具体的な手だて
「問い」と「答え」の構成を理解し、本文に書かれている内容の大体について、模型や写真を指し示して、具体的に捉えている。	「問い」と「答え」の構成を理解し、本文に書かれている内容の大体を、対話したり、模型で確認したりして、捉えている。	<p>児童には、模型を活用させ、大体の内容を捉えられるようにする。</p> <p>対話が活発ではないときの机間指導中の言葉掛けを想定し、内容の理解を促す。</p>

(4) 修正した本時の展開

	○学習活動	・指導上の留意点 ◆評価規準 ☆評価方法
導入 (5分)	○前時を振り返り、本時のめあてを確かめる。	・児童が見通しをもって学習できるように、これまでの学習や本時の活動、単元の最後に何をするのか尋ね、児童が答えられるようにする。
展開 (35分)	○ききょうのつぼみを音読する。	<p>「ききょう」の つぼみはかせに なるう。</p> <p>学習に対しての前向きな姿勢や友達の見解を言及するような「前時の良い振り返り」を、壁に掲示していたのは良かった。</p> <p>壁に掲示するだけでなく、本時の導入で紹介すると、児童の学習に対するモチベーションが上がるので、より良かった。</p>
	<p>○「問い」と「答え」という形式など、文章構成を確認する。</p> <p>○ペアで教科書の写真を見たり、具体物を触ったりしながら本文と照らし合わせて対話し、「ききょう」の特徴を捉える。</p> <p>○全体で確認する。</p> <p>多様な考えに出会い、児童がより主体的に思考できるように、全体共有の時間は敢えて設定せず、ペア学習の回数を増やす。方法としては、片方の列グループをローテーションで移動させるようにする。</p>	<p>・児童一人一人のペースで読むことを保証する。</p> <p>・支援の必要な児童には、適切な分量を音読するように指示する。</p> <p>・文章構成が視覚的に分かりやすくするために、「問い」は赤線、「答え」は青線で囲ませる。</p> <p>・「問い」に対する「答え」の後に、つぼみの開き方とどんな花が咲くかの「説明」が続くことを捉えさせる。</p> <p>・「あさがお」や「はす」と同じような文章構成で書かれているが捉えられるように文章を拡大掲示する。</p> <p>・安心して対話ができるように、頷いたり相槌を打ったりすることの大切さを確認する。</p> <p>・本文に書いてあることがしっかりと理解できるようにキキョウの模型を実際に触ったり、本文に立ち戻ったりできるように声を掛ける。</p> <p>・必要性を感じたら学習活動を止め、対話の進んでいるペアを指名し、モデルを見せるなどして確認する。</p> <p>・児童の生活経験に基づき、語彙指導を丁寧に行う。</p> <p>◆「読むこと」において、「問い」と「答え」の構成を理解し、内容の大体を捉えようとしている。</p> <p>【思】☆発言</p>
まとめ (5分)	<p>○学習の振り返りをする。</p> <p>○次時の学習の見通しをもつ</p>	<p>・顔マークで全員が振り返りをした後に、児童数名に発表させる。</p> <p>・つぼみはかせに近付いたことを価値付ける。</p>

8 板書計画

☺ 【ふりかえり】

花の写真

① さきの ほうから ひとつにわかれて、
ひらいて いきます。

② とちゅうからは つながったまま、
はながさきます。

こたえ
これは、ききょうの つぼみです。

せいめい

【ヒント】
ふうせんのような かたちをした つぼみです。

【とい】
これは、なんの つぼみでしょう。

つぼみの写真

「ききょう」の つぼみはかせに
なろう。

つぼみ

9 机間指導の目的(◎)と言葉掛け(・)

◎ 活発な対話となるために

- ・ キキョウの花はパッと咲くのですか？ どう書いてあったかな？ 書いてあるところに線を引いてみよう。
- ・ 花びらは何枚かな。数えてみよう。教科書には、なんて書いてあったかな？
- ・ 「わかる」って書いてあるけれど、どこがわかるのかな。指してみよう。他にも、文に書いてあることを確かめてみましょう。
- ・ 「さき」と書いてあるね。模型のキキョウでいうと、どこですか。
- ・ 「いつつ」とは、どういうことですか。
- ・ 「わかる」とは、どこがわかるのですか。
- ・ 「とちゅうからは、つながったまま」とは？ 模型をもとに、話し合ってみましょう。

10 資料

ききょうの模型 〈つぼみ〉



〈つぼみが開くと…〉

